

To you, 100 years from now

昭和
100年
1926—2026

昭和100年 記念フォーラム

100年後の 君たちへ

帰還者たちの想いをつなぐ

フォーラムです。

戦争体験の記憶を結ぶ

大学生、学生語り部と、

2026
12/12_土

YouTube ライブ配信

視聴
無料

LIVE
(((●)))

第1部 11:00 - 11:45

第2部 13:00 - 13:45

※終了時間は予定です



YouTube専用サイトへ
アクセスしてください。

◀アクセスはこちらから

パソコンで視聴する場合は、
帰還者たちの記憶ミュージアム(平和祈念展示資料館)
HP内の特設ページから
YouTube専用サイトへア
クセスしてください。

KAZUYOSHI TAKEDA



ゲスト
武田 一義
(漫画家)

SARA OGAWA



司会
小川 紗良



帰還者
たちの
記憶
ミュージアム

MEMORIAL MUSEUM FOR SOLDIERS DETAINED
IN SIBERIA AND POSTWAR REPATRIATES
平和祈念展示資料館[総務省委託]

主催：帰還者たちの記憶ミュージアム(平和祈念展示資料館 [総務省委託])

共催：舞鶴引揚記念館、二松学舎大学

昭和100年 記念フォーラム

100年後の君たちへ 帰還者たちの想いをつなぐ

今年は昭和元年(1926年)から起算して満100年を迎えた節目の年になります。昭和の時代は、未曾有の激動と変革、苦難と復興の時代でした。

帰還者たちの記憶ミュージアム(平和祈念展示資料館)では、関係資料の展示を通して、昭和の時代におきた戦争の記憶を次の世代へ継承するための取り組みをしています。

今回、歴史を学ぶ東京の大学生と舞鶴引揚記念館(京都府舞鶴市)で活動している学生語り部を中継で結び、2つの施設の共通の展示テーマであるシベリア抑留と引揚げに関する出来事を取り上げながら、戦争体験を伝えていくことについて考察するフォーラムを行います。

昭和の戦争を知る体験者の声はひとつ、またひとつと静かに消え去ろうとしています。あの時の痛みが忘れ去られる前に、自分たちが歴史の流れの中の当事者であることを意識しながら、多様な意見を交わしてもらいます。昭和100年の終わりに、帰還者たちの記憶ミュージアムと舞鶴引揚記念館から若者たちへ、記憶のタスキをつなぎます。

2026
12/12 土

YouTube ライブ配信

視聴
無料

LIVE
(((●)))

第1部 11:00 - 11:45

第2部 13:00 - 13:45

※終了時間は予定です

YouTube専用サイトへアクセスしてください。



[アクセスはこちらから]

パソコンで視聴する場合は、帰還者たちの記憶ミュージアム
(平和祈念展示資料館)HP内の特設ページから
YouTube専用サイトへアクセスしてください。

出演 二松学舎大学文学部歴史文化学科・林英一准教授ゼミナールの学生

大学生36名が所属。九段キャンパス(千代田区)の立地を活かして、資料館や自治体などと連携しながら、戦争の記憶を次世代に継承するための歴史実践を行っている。

舞鶴引揚記念館の学生語り部

中学生から大学生まで52名が登録。施設の案内や平和学習での同世代との交流、イベントの運営などで継承活動を行っている。

司会 小川紗良(映像作家、文筆家、俳優)

1996年、東京都生まれ。早稲田大学文化構想学部卒業。俳優として、映画『イノセント15』、NHK『まんぷく』等に出演。初長編監督作『海辺の金魚』は韓国・全州国際映画祭に出品され、同名の小説も執筆。2023年1月より、J-WAVEのラジオ番組「ACROSS THE SKY」(日曜午前9時~12時)にてナビゲーターを務めている。同年3月、創作活動の拠点として「とおまわり」を設立。



ゲスト 武田一義(漫画家)

1975年8月19日、北海道生まれ。2012年、自らの闘病体験を綴った『さよならタマちゃん』(講談社)でデビュー。『ペリリューー楽園のゲルニカー』(白泉社)は読切を経て、2016~2021年まで連載され、2017年第46回日本漫画家協会賞優秀賞、2026年第30回手塚治虫文化賞特別賞を受賞。2025年共同脚本を務めた劇場アニメが公開。



帰還者たちの記憶ミュージアム
MEMORIAL MUSEUM FOR SOLDIERS, DETAINEES
IN SIBERIA, AND POSTWAR REPATRIATES
平和祈念展示資料館[総務省委託]

東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル33階
Tel. 03-5323-8709
<https://www.heiwakinen.go.jp>

@heiwakinen